

## 5. 学生向けの防災・減災研修（DRR 研修）の実施（第 2 回）

### （1） 活動報告（概要）

		<b>助成元</b>	日本社会福祉弘済会
<b>国名</b>	インドネシア	<b>団体名</b>	Nozomi Education Center Saudara Sejiwa Foundation (サウダラ・セジワ財団 のぞみ教育センター)
<b>責任者</b>	Prof. Dr. Sudigdo	<b>担当 修了生</b>	ナンダン (23 期) (Nandang Noor RH)
<b>事業名</b>	学生向けの防災・減災研修（DRR 研修）の実施（第 2 回）		
<b>活動地</b>	<p>首都：ジャカルタ</p> <p>バンドン</p>		
<b>活動報告（目的・内容、成果など）</b>			
<p><b>1. 支援対象</b></p> <p>西ジャワ県 バンドン市 地域の 学生・教員等 450 名 (50 名×9 校) 地域のリーダー 150 名 助成金額 30 万円</p> <p><b>2. 目的・実施理由</b></p> <p>①地域の人びと、学生、教員の防災（減災）に関する知識・対応力を高める ②災害時に安全な施設とすべく、学校の施設の改善を進める ③地域の人びとの防災意識の向上</p>			

### 3. 実施内容

【実施期間】 2016年7月～12月

研修等は以下のような段階をへて実施した。

#### a) 準備

- ①このプログラムの対象となる学校を選ぶ。
- ②選ばれた学校との調整：ライセンスの準備、活動スケジュールの決定、参加人数の決定等を行う。

#### b) 活動の実施

- ①現場指導者により施設と参加者をチェックし、研修施設および参加者の準備ができているか確認する。
- ②講師、のぞみ教育センター、学生向け DRR 研修をサポートする団体などの概要や取り組みなどについて紹介する。
- ③災害に関する映画鑑賞、説明、質疑応答を通して、インドネシアで発生率の高い災害について学ぶ。
- ④災害発生時に自分の身を護る（セルフレスキュー）方法について、歌を通して学んだり、説明を聞いたりする。
- ⑤模型や道具を使って、自分の身を護る方法のシミュレーション・実習をする。

### 4. 成果

- ①災減研修を通し参加者は、災害発生時に自身をだけでなく、大事な書類等の護り方を学ぶとともに、災害発生前に、戦略的に災害の発生を防ぐために取り組むべきことなどについても学んだ。  
そのことにより、災害時の犠牲者の発生の防止や、物損リスク削減が見込まれる。
- ②学校管理者としては、自校にて自らの財源により、定期的に防災活動を継続することにした学校が増えた。

### 5. 今後の展望

今後 5 年間学校における防災研修を続けていくことで、地域／学校が独自に研修を実施できるようにする。

本財団はそれらの研修の監修・評価に専念するとともに、メディアへの働きかけなど、一般市民の防災意識の向上につとめる。